

出場者とその家族に聞きました たかはらやまトライアスロン 出場の動機と魅力

父親は十三回目の参加。

子どもがスポーツが好きで、他の会場では何回か出場しましたが、矢板は初めて。ネットですべて申し込みました。

関東では、子どもも参加できる会場は少ないのと、二時間ほどの距離なので来やすいですね。

大学の時、仙台で参加して興味を持ったのがトライアスロンを始めたキツカケ。

勤務先の工場が矢板にあり、また実家が黒磯なので来やすいのと、関東では本格的なのが少ないので参加しています。子どもと手をつないでゴールするのが楽しみです。

・子どもの姉の方は、一年から四年まで参加していましたが、三年前から出ていません。
・妹は一年から連続で五回目、一年と二年のときは一位でしたが、去年は入賞できなかったため、今年も頑張る。(レース後、「今年もダメだった、でもタイムが上がってればいいな」と話してくれました。)

(横浜市から
親子で参加の家族)

矢板は初めて。九月に大きな大会が村上市(新潟県)であるので足慣らしのために来ました。村上是四回出場しています。
プールは初めて、接触が心配です。
(スタート前の
長野県の男性)



それで仕方ないと思います。慣れない人は心配すると思います。本人は「水が冷たいけど今日も頑張る」と言っています。

スポーツ好きなので、子どもになにか目的を持たせるためにマラソンを走らせていたが、小学校に入學して参加資格ができたのでトライアスロンに挑戦させ六回連続。昨年小五で優勝しました。

・子どもはこの日に向け、気持ちの切り替えを行えるようになり、例えば、参加するために、怪我をしないよう自転車は交差点では必ず停止。食事や寝起き等の時間の使い方にも考えるようになりました。

・六回目なので要領も分かります。父親と子どもは今の辺りで遊んでいる。母親はゼッケンを縫いつけたりして、それぞれに時間を費やしています。今日も五時起きで来ました。
・スタッフはレースが始まるまで子どもには余りかまってくれず、それは



「今回も優勝したよ!」と褒めはなにか貰えるの? と聞くと「オジさん良いこと言う」父親は「それじゃあアイスでも買ってやるか」と。トライアスロンを通して家族のきずなの深さを記者は感じました。
(茨城県古河市からの小学六年生の家族)

トライアスロン大会の運営を陰で支えているボランティアの方々。
出場者の家族や矢板中央高校サツカ部員、市の観光ボランティアなど、約二百人が、汗を流してくださいました。
その中から、矢板市婦人会(君島里美会長)の皆さんに伺いました。

ボランティアのみなさんありがとう!

たとき、役に立っていると感じて嬉しかったですね。
また、ペットと一緒に、あるいは、奥さんや子どもと手をつないでなど、家族そろってゴールする姿を見たときには感動しました。
この大会は、本当に多くの人たちの陰の力で運営されていますね。
若い方も含めて、多くの女性の皆さんが参加を待ちしています。(K・H)



矢板は二回目の参加。年に三、四回、各地で出場しています。三十歳の時、体重を減らすのが目的で始めたのがキツカケ。妻子は宇都宮に避難中、自分は仕事があるので福島市にいます。
・坂がキツイ、それが逆におもしろいのがこの魅力。夢は子ども(二才

位)と一緒にゴールすること。
たかはらやまトライアスロンは主催者からゴール時の写真を送ってくれるのが良いですね。また、ゴール時に家族と一緒にテープを切ることも認められているようで、素敵ですね。
(福島市から参加の男性)